

2012年12月25日

日本医学会会長 高久 史磨 先生

「戦争と医の倫理」の検証を進める会

代表世話人 赤羽根巖
代表世話人 石川 徹
代表世話人 西山勝夫
事務局長 住江憲勇

「戦争と医の倫理」の検証などに関する懇談のお願い

謹啓 高久史磨会長には、日本の医学研究の促進と、医学および医療の水準の向上のため、日夜ご尽力なされていますことに敬意を表します。

さて、去る10月19日には、日本血液学会で大変ご多忙のところ、京都国際会議場にて当会の代表と面談の機会をいただき、誠にありがとうございました。

短い面談の機会ではありましたが、高久史磨会長より、当会の要請の趣旨を第29回日本医学会総会の井村裕夫会頭にもお伝えいただける旨のお話もいただきました。その後、井村裕夫会頭からもご連絡をいただき、11月19日に面談いたしました。懇談の中で、井村裕夫会頭からは、「まだ企画は白紙であり、関係委員会でも検討したい」旨の意向も示されました。

この間の高久史磨会長のご配慮に感謝申し上げます。

私たちは、高久史磨会長との面談の後になりますが、京都大学で「戦争と医の倫理」をテーマに、11月17日にはドイツの代表も招いての国際シンポジウムを行い、パネル展示は11月16日～21日まで開催しました。参加者や来場者からは、「このような史実の検証は大事であり、今後の医学・医療にも生かして欲しい」と、医学・医療関係者への期待を込めた声が多数寄せられました。

iPS細胞に象徴されるように、現在の医学・医療の歩みは著しく、ますます医学者・医師に高い倫理観が求められているのではないのでしょうか。これに応えるためには、私たちが医学・医療のこれまでの歩みを真摯に振り返ることが重要な課題の一つです。なかでも、日本の医学医療が進歩・近代化し始めた昭和の初期、「15年戦争期」及びそれに続く「戦後期」の医の倫理にかかわる反省、教訓を生かすことは欠かせません。

過日は大変ご多忙の中でしたので、あらためて日本医学会としてのご検討もいただきたく、当会のパネル集「戦争と医の倫理」へのご感想を含めて、高久史磨会長と懇談の機会をいただければ幸甚に存じます。ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、高久史磨会長のご都合などを同封の返信用封筒（あるいは、下記のメールアドレス宛）でお知らせいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

謹白

「戦争と医の倫理」の検証を進める会

(連絡先) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-5-5 (新宿農協会館5階)

全国保険医団体連合会 内

TEL. 03-3375-5121

FAX. 03-3375-1862

e-mail tadashi-mri@doc-net.or.jp

URL <http://AVIC.doc-net.or.jp>